

## ○研究プロジェクト「ビジネス・エコノミクスの新展開」

開催責任者 経営学部 後藤剛史  
経済学部 小林佳世子

2008年3月24日  
南山大学名古屋キャンパス J棟 415室

研究プロジェクトは以下のとおり、開催された。

### ◇プロジェクト構成員および所属

後藤 剛史 (南山大学経営学部)  
湯本 祐司 (南山大学ビジネス・スクール)  
南川 和充 (南山大学経営学部)  
笹井 均 (南山大学ビジネス・スクール)  
上田 薫 (南山大学経済学部)  
小林佳世子 (南山大学経済学部)  
澤木 勝茂 (南山大学数理情報学部)  
成生 達彦 (京都大学大学院経済学研究科)  
丸山 雅祥 (神戸大学経営学部)  
倉澤 資成 (横浜国立大学経済学部)

### ◇研究プロジェクトの討論内容および進展状況

#### 1. 研究プロジェクトの実施状況

本研究プロジェクトは、以下のように、1回の研究会を実施した。開催場所はいずれも名古屋キャンパスJ棟J415室である。

#### [第1回研究会]

日時：3月24日(月) 13:30-17:30

報告者・論題(報告順)

- ・湯本 祐司 (南山大学大学院ビジネス研究科教授)  
“Are Negative Activities Always Bad? -Sabotage in Promotion Tournaments-”
- ・堀 宣昭 (九州大学大学院経済学研究院准教授)  
“Matching as Signal”

- ・内田 交謹（北九州市立大学経済学部准教授）

“The Change in Japanese Corporate Ownership Structures: Causes and Consequences”

- ・成生 達彦（京都大学大学院経済学研究科教授）

「系列サプライヤーと系列間競争」

## 2. 研究会の討論内容と研究プロジェクトの進展状況

今回の研究会における各報告者の発表テーマは、すべて本研究プロジェクトの基本的な研究方針「ビジネス・エコノミクス（経営経済学）の新たな進展を目指す」に沿ったものであった。いずれの発表においても、報告者の報告をめぐって活発な討論がおこなわれた。以下で、各報告の内容を要約する。

湯本氏の報告は、組織内において、組織のメンバーが昇進をめぐってトーナメント競争が行なう際の、メンバー間での妨害行為について考察したものである。通常はそういった妨害行為は抑止すべきものとして組織の制度設計が行なわれるが、湯本氏は妨害行為が組織にもたらすメリットの存在を明らかにした。

堀氏の報告は、新卒学生の採用時における学歴の役割を、従来のシグナリング・モデルではなく、企業と学生とのマッチングの要素を考慮したシグナリング＝マッチングモデルで考察したものである。

内田氏の報告は、日本企業のコーポレート・ガバナンスに関する最近の変化、すなわち、企業間の株式持ち合い比率が1990年代において急激に低下したことの原因について実証的に分析し、外国人投資家の存在が重要な役割を果たしていたことを明らかにした。

成生氏の報告は、系列のサプライヤーから部品を調達して最終財を生産する組み立て企業間の競争について考察したものである。とくに、ある条件の下で、部品価格が異なるという意味における非対称均衡を導出している。

### ◇研究成果発表

報告者各自がそれぞれ、査読雑誌等に発表することとしている。